

森の恵みを未来へつなぐ

～しそ森林王国の挑戦～

VOL.
4

公益財団法人しそ森林王国観光協会（兵庫県宍粟市）

2026.3.26

設立の経緯 -2つの組織がひとつに

法人設立のきっかけは、平成17年の市町村合併に遡る。旧宍粟郡の山崎町、一宮町、波賀町、千種町の4町が合併して「宍粟市」が誕生した際、各町が独自に運営していた4つの観光協会も統合され、「しそ観光協会」が誕生した。

その後、「しそ森林王国」として、森林をはじめとする豊かな自然資源を守り、その自然の中で人々が楽しくふれあい、心身ともにやすらげる緑のふるさとづくりをめざしてきた「公益財団法人しそ森林王国協会」と平成28年4月に統合し、現在の「公益財団法人しそ森林王国観光協会（以下「協会」という。）」が発足。これにより、市の面積の約9割が森林という特性を活かし、観光振興と森林活用を一元的に担う組織として、新たなスタートを切った。

18年続くロングセラー企画『宍粟50名山事業』

協会の活動の中でも、特に長い歴史と人気を誇るのが、平成20年から続く「宍粟50名山事業」である。これは、市内の50の山すべてを踏破した人に対し、宍粟市長と協会理事長連名の「完全登破認定書」を発行するものである。令和6年度は47名が完全踏破を達成し、これまでの累計認定者数は延べ756名（令和6年度末時点）にのぼる。事業には、市民に限らず、近隣の姫路市や岡山県など市外からも多く参加し、宍粟市の山々に親しむ登山愛好家を生み出してきた。比較的気軽に登れる山から本格的な登山が楽しめる山まで、様々なレベルの登山に挑戦できるのが魅力である。参加者の挑戦心を刺激し続けるこの企画は、市外からの交流人口を創出する、協会の基幹事業となっている。



五感で森を味わう『森林セラピー』と『レンタサイクル』

「森林王国」の名にふさわしい事業として、「森林セラピー」と「マウンテンバイク・レンタサイクル」も展開している。森林セラピーは、宍粟市北部の赤西(あかさい)渓谷沿いをはじめ、市内3か所のセラピーロードを専門ガイドと共に歩き、森の空気を深く吸い込んだり、自然の音に耳を澄ませたりしながら心身をリフレッシュする体験プログラムである。企業研修や健康増進を目的とした団体利用も多く、自然の中で五感を解放する貴重な機会を提供している。

また、協会では35台のE-BIKE（電動アシスト機能付マウンテンバイク）を保有しており、セラピーロードの一部をマウンテンバイクで駆け抜ける爽快なセラピーバイク体験も可能である。手ぶらで訪れた観光客でも気軽に利用できるため、アクティブに森を楽しみたい層から人気を集めている。これらの事業は、宍粟市の豊かな森林資源を多角的に活用し、訪れる人々に多様な自然体験を提供するための重要な取り組みとなっている。



様々なコースが用意された森林セラピー

まちを巡る新たな風『シソイチ（しそう1周）』サイクルツーリズム

近年、力を入れているのがサイクルツーリズムである。その中心となっているのが、市内をぐるりと巡る約60kmのサイクリングコース「シソイチ（しそう1周）」である。

このコースの大きな特徴は、5月から11月までの期間、個人がいつでも自由に挑戦できる点である。参加者は「シソイチ」公式LINEに登録することで発行される割引画像で協力店舗の割引などの特典を受けながら、自分のペースで完走を目指す。沿線上の4カ所のチェックポイントで自転車と投稿者の写真を公式LINEに送ることで達成証が発行され、令和6年度は258名が達成している。

また、令和7年度からは、「シソイチライドイベント2025」と題した、サイクリングイベントを開催。このイベントはサポートライダーの伴走のもと、市内外から集まった人々がシソイチのコースを集団で周るサイクリングと観光を合わせたものである。募集定員100名のところ、120名以上が集う人気の企画となり、大きな賑わいを見せた。

これらのサイクルツーリズムでは、個人での挑戦とイベントでの一体感、両方を楽しめる仕組みであることが、新たなファンを増やし続けている。



課題への対応と魅力発信に向けた取り組み

活動の裏で、いくつかの課題にも直面している。

第一に、「知名度の低さ」である。「市外、特に京阪神の大都市圏において『宍粟（しそう）』という地名の認知度が低く、そもそも漢字を正しく読んでもらえないことが多い。それが非常に悔しい」という率直な思いを協会事務局の鎌田さんは語った。

協会はこの課題を克服するため、情報発信に力を入れており、30年にわたって続いてきた「しそう森林王国女王」の取り組みを、令和4年度から男女を問わず宍粟につながりを持つ人が広く参加できるよう「しそうブランドアンバサダー」へとリニューアルした。現在2名（任期1年・4代目）が活動しており、イベントの司会や受付、SNSでの情報発信などを担当している。これまで、市外在住者で「宍粟市をPRしたい」という熱意のある人からの応募もあり、新たな視点で市の魅力を伝えている。このほか、動画投稿やインフルエンサーとの連携も積極的に行い、あらゆる手段で「宍粟」の名を広めようと奮闘している。

第二に、「自然環境への依存と変化」である。活動の多くがアウトドア中心であるため、雨天など悪天候時の代替コンテンツが限られている点は長年の課題とされている。また、近年の気候変動により、春の「大歳（ださい）神社藤まつり」や秋の「最上山もみじ祭り」といった季節イベントの開催時期の判断が難しくなっている。さらに、クマの出没情報も増えており、登山者への注意喚起や安全対策がより一層重要になっている。



大歳神社藤まつり



最上山もみじ祭り

今後の展望 — 交流の先に生まれる地域の活気

協会では、今後、これまで以上に市外からの交流人口増加に力を入れていく方針である。「一足飛びに定住ではなく、まずは週末に繰り返し遊びに来てもらえるような関係を築きたい。」と鎌田さんから協会の目標が語られた。そのための具体的な方法としては、好評を得ているサイクルツーリズムのさらなる強化が挙げられる。参加者数の増加を受け、より満足度の高いイベントの企画や、コースの魅力を高める取り組みを検討していくとのことである。

こうした交流事業を通じて市の魅力をアピールし続けることで、長期的な人口減少という課題に立ち向かい、交流を通じた地域の活気を維持・向上させていくことを目指している。



♪まちづくり人(びと)からのメッセージ♪

公益財団法人しろう森林王国観光協会 事務局 鎌田 勝也 さん



「僕たちの活動で、まず地域の方々を元気づけたいという思いがあります。」

そして、市外から遊びに来てくださった方には、日常の閉塞感を打破するような、何か『ワクワクする体験』を提供したいと思っています。」



しろう森林王国観光協会
ホームページ

～追伸～

ここでは僕のこれまでの人生でも出会ったことないほどのそっくりさん、いや、もはや生き別れの弟と言っても過言ではない人とその出身地をほんのちょこっとだけ紹介させてください(笑)

激似！！



→ 鎌田さん

令和5年度地域づくり団体
全国研修交流会in島根にて

地域づくり団体全国協議会
元事務局員 大和さん
←(三重県四日市市より派遣)

四日市市は、「工業夜景の聖地」と言われており、幻想的な夜景が楽しめます！
また、自然豊かなまちでもあり、全国有数のかぶせ茶の産地であるほか、キンミヤ焼酎やとんてきなど美味しいものも沢山あります！

実は宍粟市も現存する五風土記のひとつ「播磨国風土記」の中で、日本酒について最古の記述があることから「日本酒発祥の地」「発酵のふるさと」としてのPRを進めています！
日本酒発祥の地、森林王国宍粟とキンミヤ焼酎発祥の地、工業都市四日市どちらもどうぞご最良に♪